地域と医療で咲くコミュニケーション

あまが咲だより

2019
8月
No.63

兵庫県立尼崎総合医療センター
Amagasaki General Medical Center (AGMC)

[診療科紹介]
小児救急集中治療科

[部門紹介]
臨床工学課

[AGMC委員会・部会めぐり] DMAT委員会

● [AGMCニュース] 第75回 市民すこやかセミナー
『元気に長生き 口腔ケア』を開催いたしました

●セミナーのご案内　●患者さん・ご家族への病状説明等について　●ぶらり～っと病院探訪

小児救急集中治療科

救急現場から集中治療までシームレスに小児救命救急医療を提供します

小児救命救急センターには、小児科・小児救急集中治療科医師が常時待機し、疾患の内容を問わずあらゆる小児救急患者に対応しています。また、8床の小児集中治療室（PICU）を有し、どのような重症患者にも対応可能です。さらに小児ドクターカーを用いた病院前診療も担当しており、小児重症患者に対して救急現場から集中治療までをシームレスに（継ぎ目なく）提供していることが当院の小児救命救急診療の大きな特徴です。

小児救急集中治療科
科　長
菅　健敬

- 日本小児科学会専門医・指導医
- 日本救急医学会専門医
- 日本集中治療医学会専門医
- 麻酔科標榜医
- 日本DMAT隊員・統括DMAT

構成メンバー

小児救急集中治療科医師5名
小児科、院内他科、他院からのローテート研修医師3～4名

後列左より：河内医師、菅医師、山上医師、楠本医師
前列左より：花田医師、山岡医師、岩橋医師、中邨医師

提供する活動内容

●小児ドクターカー

全国に先駆けて小児専門のドクターカーシステムを運用しています。運用開始以来、1000件を超える要請に対応してきました。

●小児救命救急センター

全国にまだ17施設しかない小児救命救急センターの指定を受けています。

●PICU（小児集中治療室）

年間300例以上の症例を受け入れています。あらゆる重症患者に対応が可能です。

患者さんや地域医療機関へのメッセージ

早期介入による予後の改善を目指しています。地域の皆様におかれましては、小児ドクターカー活動にご理解、ご協力のほどお願い申し上げます。

PICU（小児集中治療室）

部門紹介
臨床工学課

～いのちをささえるエンジニア～ 現代医療に欠かせない医療機器のスペシャリスト

◉構成メンバー　臨床工学技士22名

臨床工学技士という職を初めて聞く方もいるのではないでしょうか。臨床工学技士とは医学と工学の両面を兼ねそろえた国家資格です。病院内ではCE(Clinical Engineer)さんやME(Medical Engineer)さんと呼ばれています。医師や看護師・各種医療技術者とチームを組み、生命維持装置など医療機器の操作や管理を担当しています。医療機器や治療法が日々進化・複雑化する中、医療機器を熟知して、いつでも安全に使用できるようにすることが私たちに与えられた使命です！

◉提供する活動内容

臨床工学課が担当している主な業務を紹介します。手術室、ICU、カテーテル治療室、心臓ペースメーカー外来、人工透析室などさまざまな場所で業務を行っています。医療機器の専門家ですが、患者さんと直接関わる機会も多く、機器を通して患者さんをサポートしています。

▲人工心肺業務

▲手術室業務

▲カテーテル治療業務

▲呼吸療法業務

▲血液浄化業務

▲医療機器保守管理業務

◉患者さんや地域医療機関へのメッセージ

医療機器が正常かつ有効に使用できるかは医療の質や生命を直接左右します。当院では臨床工学技士が24時間365日、緊急手術や機器トラブル等に迅速に対応できる体制をとっています。

AGMC 尼崎総合医療センター
Amagasaki General Medical Center

委員会・部会めぐり

ー豊かな医療を育むための協議ー

適切な運営および安全な医療提供を行うために、
多職種で運営されている院内委員会・部会です。

DMAT委員会

災害時、一人でも多くの命を助けるために活動します

ER総合診療科部長
（DMAT委員会委員長）
西内 辰也

救命救急
センター長
吉永 孝之

委員会の紹介・特徴

DMATとは、災害派遣医療チーム（Disaster Medical Assistance Team）の略称です。専門的な訓練を受けた医師、看護師、業務調整員で構成される医療チームが、大規模災害や多数傷病者が発生した事故の現場などで、急性期（おおむね48時間以内）に活動します。当院は、災害時における初期救急医療体制の充実強化を図るための医療機関である災害拠点病院であり、29名がDMAT隊員として登録されています。当委員会は、DMAT活動の円滑な推進を図るため設置・運営されています。

《構成メンバー》

診療部医師11名、看護部13名、医療技術部門（放射線技師、薬剤師、臨床工学技士、臨床検査技師、救急クラーク）8名、総務部4名

DMAT委員会 メンバー

DMAT隊員の活動状況（H28.4 熊本地震）

初療でのクロノロ（経時活動記録）（H30.9 北海道地震）

活動内容

毎月第三木曜日に開催。災害時のDMAT隊派遣や後方支援についての連絡調整を担当するほか、平時は各地で行われる災害訓練、研修等へのDMAT隊員の参加、報告の取りまとめや隊員の連絡網の整備、災害用備品の管理などを行っています。

患者さんや地域医療機関へのメッセージ

近年、自然災害における被害は増えており、DMAT隊の派遣要請は増えていくと思われます。DMAT隊の派遣は自然災害だけに限りませんが、これからも緊急時に備え、円滑に活動できるよう日々取り組みを続けてまいります。

AGMC ニュース

第75回 市民すこやかセミナー『元気に長生き 口腔ケア』を開催いたしました

令和元年6月21日(金)当センター講堂において、上記セミナーを開催いたしました。なぜ口腔ケアが必要なのかという点から具体的なブラッシングの方法まで、動画やイラストを交えながら講義を行いました。

❶周術期口腔機能管理と日々のケア

周術期とは、手術日を含めた手術前後のことをいい、手術前後に歯の治療をおこない、手術までに歯周病の治療やむし歯の治療、抜歯、義歯の作製などをおこなうことを「周術期口腔機能管理」といいます。手術後のトラブルを防ぐために大切な治療ですが、日々のケアを怠っていると手術までに間に合いません。

❷お口の健康を守るために毎日できること

日常的な口腔ケアとして、朝昼晩3回食べたら磨くことが基本です。歯ブラシは、歯に対して45度くらいの角度をつけて、鉛筆持ちで優しく磨きましょう。歯磨き粉の量は小指の爪程度、磨くときの圧は100～200g程度が適正とされています。また、歯ブラシは1～2ヶ月での交換が目安です。

❸お口の中の乾燥について

口の中は、唾液量の低下や飲んでいる薬の影響、ストレス、口呼吸によって乾燥します。乾燥すると自浄作用の低下により口腔内細菌が増加し、誤嚥性肺炎のリスクが高まることが考えられています。乾燥を予防するために、スプレーや洗口液、ジェルなどの保湿剤を活用しましょう。

❹フレイルとサルコペニアについて

加齢に伴って、筋力や精神面の衰えを示すフレイル、骨格筋量の低下と骨格筋肉量の低下を示すサルコペニアという言葉があります。フレイルには、口腔機能の軽微な低下や食の偏りなどを示すオーラルフレイルという状態があり、自分の口の健康状態を知ってオーラルフレイル対策を行うことが大切です。

最後に

毎日笑顔で楽しく過ごせるように、毎日の歯磨きと定期的な歯科受診をバランスよく行い、健康に向けてよりよい生活習慣を目指しましょう。

セミナーのご案内

第24回 生活習慣病セミナー

多くの方のご参加を！

テーマ 『生活習慣病と“がん”』

【講　師】県立尼崎総合医療センター
●腫瘍内科 医師　森　由希子　●がん看護専門看護師　礒元 淳子

【日　時】2019年9月19日(木曜日)　午後2時～4時(開場・受付開始 1時30分)

【場　所】県立尼崎総合医療センター 講堂(1階)　**参加費:無料(予約不要)**

★お問い合わせ：外来Bブロック(糖尿病・内分泌内科) 看護部 ☎ 06-6480-7000(代表)

患者さん・ご家族への病状説明等について

日頃は、当院の診療にご協力いただき有難うございます。さて、医師の長時間労働に伴う健康被害が社会的問題として大きく取り上げられ、厚生労働省より、全ての医療機関に対して、「働き方改革」の趣旨に基づき、医師の労働時間短縮に向けた緊急的な取組みが求められています。

これを受け、当院の取組みとして、「患者さん、ご家族への病状説明等」を「平日の日勤時間内(9:00～18:00)」に実施させていただく方針といたしました。

病状の変化等により診療科から申し出る場合を除いて、患者さん、ご家族の都合による土曜、日曜、祝日、又は時間外の病状説明等のご依頼は、お断りする場合がございますので、ご理解、ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

ぶらり～っと 病院探訪

透析センター

今回は、当院5階の透析センターに訪問してきました。

透析センターは、シースルーエレベーターを上がって5階、大きな西側の窓から植樹の新緑と梅雨の晴れ間の光が差し込む、癒やしの場所にありました。

訪問した日は、医師と看護師による合同カンファレンスが開催されていて、透析患者さん個別の治療方針の確認や、その他様々な情報共有が行われていました。チーム一丸となって患者さんやご家族の意思決定を支え、社会生活を送りながら、安心して自宅療養ができるように、生活スタイルに応じた自己管理の指導や、地域の医療機関との連携も積極的に取り組んでいるとの事でした。透析センターでは「○○さん、おはようございます」と、元気で明るい挨拶から1日がスタートします。良好なチームワークで、安全かつ効果的な透析治療を日々実践されている事に、とても嬉しく心強く感じました。

▲合同カンファレンス

今月の表紙写真

PICUの紹介

PICU(小児集中治療室)には、一般小児科とは別に専属医師が配置されています。また、休日時間外においても専任の当直医師を配置し、24時間体制で重症小児患者の受け入れから集中治療を行うために必要なスタッフと医療機器を配置しています。

小児重症患者が搬送された場合は、救命救急センターにおいて各診療科と連携し、救命救急治療を行います。多数の診療科を有する総合病院であるからこその幅広い対応能力が特長です。

編集後記

最近は、今まで当たり前と思っていたことが実は誤りであったと考えさせられることが次々と発覚し世間を賑わせています。ネット社会の光と影を見ているのだと思います。当院における診療体制にあてはめると、うわべだけの評判を追い求めるのではなく、むしろ我々のできる範囲内で、患者さんの満足が得られるような形で一歩ずつでも前進していくことが重要であると再認識させられました。　(I.U.)

兵庫県立尼崎総合医療センター
Hyogo Prefectural Amagasaki General Medical Center (Hyogo AGMC)
〒660-8550 兵庫県尼崎市東難波町二丁目17番77号　TEL 06-6480-7000(病院代表)　FAX 06-6480-7001
URL：http://agmc.hyogo.jp/
兵庫県立尼崎総合医療センター　検索

発行　兵庫県立尼崎総合医療センター　企画協力・デザイン・印刷　兵田印刷工芸株式会社